

# 第23回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成23年2月

応募者名：宮崎県 県土整備部

事業の名称：葦原通線シンボルロード整備事業

実施都市名：宮崎県 都城市

## 事業目的

本路線は、都城市の中心市街地に位置し、交通結節点であるJR日豊本線西都城駅と国道10号を連結する重要な幹線街路で、都城市のシビックコア地区整備計画において、シビックコア地区内を回遊する快適な歩行者空間ネットワークの中心軸と位置付けられています。県では、「市民に親しまれ生活に潤いを与える場」、「都城市の顔となり地域社会の象徴となる道」の再整備を目的として事業を行いました。

## 事業概要

事業名称: 蔵原通線シンボルロード整備事業

路線名: 都城広域都市計画道路 蔵原通線  
(県道都城霧島公園線)

事業箇所: 宮崎県 都城市

事業延長: 410.0m

幅員: 16.0m(30.0m)

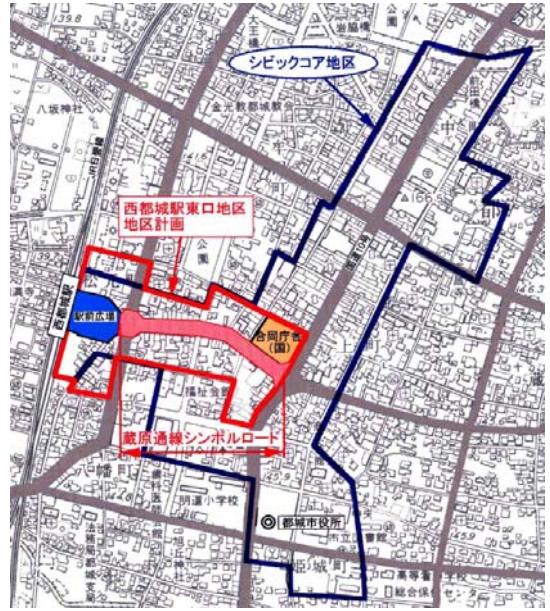
事業費: 1,399百万円

事業実施期間: 平成14年度～平成21年度

本事業は、車線数を片側3車線から2車線へ減らし、歩道照明や植樹帯、電線類地中化における地上機器等を施設帯の中に集積する等、道路全体の幅員構成の見直しを行うことでゆとりある歩道空間を作り出しました。

また歩道舗装の高質化や拡幅、駅前広場の再整備を行い、地域の人々が道路を有効に活用することができる道路空間が生まれました。この歩道では天然御影石をメイン舗装材に使用し、重圧感のある景観や歩き心地を高めています。

# 事業位置図



## 全体図(平面図・側面図・横断図)



# 蔵原通線の整備効果アピール資料

シンボルロード協議会による現地調査 [平成14年度]



ワーキング部会による歩道舗装材選定の試験施工[H19.6月]



ワークショップによる通りのデザインと道路空間利活用の検討[H21.10月]



地元小学生によるバスシェルターへの屋根材取り付けイベント [H22.9月] 参加者約250名



地元の通り会による広場づくりイベント [H22.10月]



## ○事業概要

事業名:蔵原通線シンボルロード整備事業  
路線名:都城広域都市計画道路 蔵原通線  
事業箇所:宮崎県 都城市  
事業延長:410.0m  
幅員:16.0(30.0)m  
総事業費:1,399百万円  
事業期間:平成14年度～平成21年度

蔵原通線シンボルロード完成イベント [H22.11.3] 参加者約2,500名



## 「整備効果」

1. 整備計画策定を行ったシンボルロード協議会を中心とし、設計から工事、竣工までのプロセスにおいて地域住民や学識経験者、行政機関を含めての合意形成を行ったことで、公共空間の利活用と保全に取り組む地元組織が生まれた。この組織を中心としてこれまでに5回、延べ約3千人が参加するイベントが開催された。
2. 電線類地中化と歩道の高質化による道路空間及び市街地景観の向上が図られた。
3. 駅前広場の整備による公共交通機関利用者の利便性の向上が図られた。

## 「その他の事業効果」

### ～道路デザイン方針の継承～

将来にわたって高質な道路空間を維持していくため、今後、“通り”が守るべき基本ルールを明確にし、関係者が相互に見守り続けることができるよう、デザインコンセプトをまとめました。

### ～みんなで取り組む体制づくり～

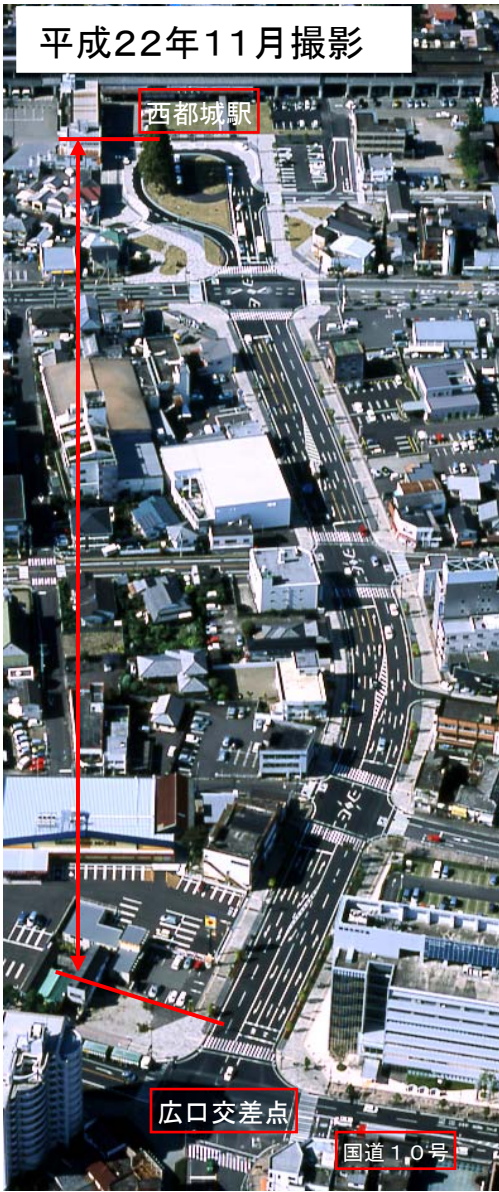
きれいで心地よく賑わいが生まれる道づくりを進めるためには、沿道住民やその他の道路利用者が維持管理に参加し、道路空間を守り育てようとする意識とその活動主体となる組織の構築が必要です。

# 事業前写真



# 事業後写真

平成22年11月撮影



平成23年2月撮影



蔵原通線シンボルロード完成イベント

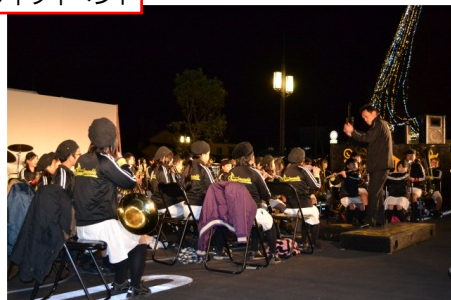
平成22年11月撮影



平成22年12月撮影



クリスマスライブイベント



平成22年11月撮影



蔵原通線シンボルロード完成イベント

